

1 『社会福祉法人』は変わるか！？

○開催目的

今 社会福祉法人改革が謳われています。とりわけ「地域における公益的な取組の義務化」が定められ、新たな役割が問われようとしています。本来、社会福祉法人は、まったく制度がない時代から、市民活動の原点とも言える地域住民や多くの関係者がボランティアに連帯して制度化してきた法人です。この制度を改革するという事は、現行の事業に何らかの活動を付け足せばよいというものではありません。

かつてそうしてきたように地域や多くの市民・ボランティアとの協働が必要であり、国や行政もその役割を新たに問われます。さまざまな制度の規制や厳しい経営状況のもと、社会福祉法人は変わるのでしょうか？

この分科会では、市民の目から捉えた地域における社会福祉法人の役割、ボランティア・市民活動と社会福祉法人の接点、そしてこれからのあり方について考えます。

○開催日時

2月12日（金）19：00～21：00

○参加者数・出演者・団体

参加者数：36名（参加者26名、出演者4名、スタッフ6名）

パネルディスカッション

パネリスト 西岡 修さん（社会福祉法人白十字会 白十字ホーム施設長）

矢沢 正春さん（社会福祉法人新宿障害者福祉協会 新宿区立あゆみの家施設長）

高瀬 由直さん（社会福祉法人青梅市社会福祉協議会 事務局次長）

コーディネーター

安藤 雄太さん（東京ボランティア・市民活動センター アドバイザー）

○プログラム内容・成果と課題

1 各法人よりテーマに関する考え方やこれまでの取り組みの紹介

- ・各法人の概要、現在の地域における取組等を紹介していただいた。

2 登壇者パネルディスカッション

- ・各法人や社会福祉協議会ともに、成り立ち当初から地域とつながった活動を行ってきた。この改革でさらに何がもめられているのかを明確にする必要がある。
- ・社会福祉法人は現在でも、経営や人材確保等さまざまな課題を持ちながら運営をしているが、それでも地域、住民と協働した活動を行っていくのは当然。
- ・今後の方向性についてディスカッションを行った。

3 質疑

○参加者の声

- 三人の方、それぞれの見解を聞くことができ、とても参考になった。主体的な取り組みをされていると感じました。業務だけでなく、区民、市民の声に耳を傾けてくれるか、共感を持って応えてくれるか差があるように感じている。時間が足りなかったように感じた。
- 地域の課題解決にも役目を担う、という本質は変わらないと思って聞いていました。さまざまなお立場の方のお話を伺い、取り組みにあたっての考え方について、視野を拡げてもらったと思います。
- 社会福祉法人について少しですが分かりました。また3人のパネラーの方の話に引き込まれ大変興味が湧き、できればそこで働きたいと思いました。
- 三者三様の考え方は、抽象的な部分もあったが、それぞれ大変参考になりました。スタッフが夢の見れる法人を作っていってほしいです。

○担当者・記録

《担当》	柴田 健次（東京都社会福祉協議会）
	上岡 夏海（社会福祉法人白十字会 白十字ホーム）
	新部 聖子（スープの会）
	宮崎 雅也（日野市ボランティア・センター）
	熊谷 紀良（東京ボランティア・市民活動センター）
《記録》	柴田 健次（東京都社会福祉協議会）

